

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

工業高校としての歴史をもち、多様な進路実現をめざす総合学科の高校の定時制の課程として、多様な価値観を認めていく人権尊重の態度を養い、自己肯定感を高め自ら夢や志を抱いて人生を切り拓く力を育てる。

- 1 生涯にわたる幸福をめざし、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、個々のニーズに応じた学びを実践する。
- 2 仲間づくりや人とのかかわりを通じてコミュニケーションを豊かにすることを自ら学び、人権を尊重し「ともに学び、ともに育つ」学びを実践する。
- 3 様々な体験的活動や外部人材の活用を通じ、自己実現を支援する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成
 - (1) Well-being を志向する社会に適応し、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育み、ICTの活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実践を通じて「基礎学力の充実」を図る。
 - (2) 自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実を図り、進路選択のサポートを強化し、進路決定率をR9年度まで90%以上を維持する。
R4：96.2%、R5：92.0%、R6：91.3%
 - (3) 「学びに向かう環境づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善を図る。
※全出席率をR9年度に70%をめざす。 R4：62.2%、R5：56.5%、R6：58.6%
(参考：遅刻・早退を含む出席率R6：83.3%)
- 2 豊かな心と健やかな体の育成と人権を尊重する学びの推進（生徒自らが活気ある学校生活を送る）
 - (1) 人権感覚を高め、人権意識を深め、互いに多様性を尊重する学びの場を提供し、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
 - (2) 体験活動等の充実化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓く力を育成する。
 - (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的な生活習慣と規範意識を身につける。
 - (4) 安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備の充実を図る。特に、ソフト面では「高校生活支援カード」や中高連携から得られた情報を有効活用するとともに、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）やSC（スクールカウンセラー）等を活用し、ヤングケアラーを含む生徒の課題の克服をめざして家庭・地域・外部機関との連携を図る。
※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した令和4年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率7.6%以下を維持する。 R4：3.0% R5：8.3% R6：1.4%
- 3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上
 - (1) 各分掌、各委員会、各学年における年度末の総括を踏まえ、各担当業務の改善を図る。
※学校教育自己診断における「教育活動の改善」に関する設問について肯定的回答50%以上をR9年度まで維持する。
R4：53.9%、R5：37.6%、R6：64.7%
 - (2) OJTと外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図り、リーダーの育成に取り組む。
 - (3) 教職員の同僚性を向上し、活気のある職場づくりをめざす。
- 4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する
 - (1) 地域との連携、地元中学校および保護者等への広報に関し、学校HP活用を通じて効果的な情報発信に努める。
 - (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
 - (3) ものづくり体験を通じて定時制の取組みを中学校や地域に対して広報する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路についての必要なアドバイス」「生徒の健康に対する配慮」「生徒は校則をよく守っている」「先生の指導は納得できる」「命の大切さを学ぶ機会がある」など17項目中7項目が肯定率70%以上である。 ・「選択科目が自分の興味関心にあっている」項目が50%を下回っている。教育課程の見直しを実施する時期と考える。「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が昨年度より若干減少している。実態を調査し向上させていきたい。 ・人権に関する設問で肯定的回答が7割を上回り、かつ、校則を守る意識、生徒指導に関する肯定的回答が7割を上回っている。日常の人権教育および生徒指導が評価されたものと考えられる。半面いじめ防止に関する肯定率が50%と低いが、この項目は「わからない」と回答した率が32.4%もあり、質問が「いじめについて困っている時」という設問のため答えられなかったと推察する。 <p>【保護者の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に高評価であるため学校の教育活動に一定の理解と協力を得ることができていると考えられるが、回答率が低く正確な検証が難しい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者共に回答率の向上が必要である。 ・引き続き日常的な取組みの充実を図っていく。 ・保護者等の学校への関心や参加をより一層促していく。 	<p>第1回(6/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学者の相談窓口を作ってはどうか。 ・中学校へのアプローチは大事なので進めた方がよい。 ・大学進学者のフォローの体制を作ってはどうか。 ・離職率についてはどうなっているか。退職者のフォローも検討してほしい。 ・学校経営計画とスクールポリシーに沿った表現にしてはどうか。 <p>第2回(11/1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人差別を助長するような社会風潮を感じる。人権教育をもっと推進するべきではないかと感じる。 ・多様な進学先があるが、進学したくても諦めるということがないよう対応してほしい。 ・入試改革について定時制はどうなっているのか。(令和10年度入学生より大規模な入試改革時期を一本化して少し早めることなど 定時制は学力検査を廃止して調査書と面接等で合否判定) <p>第3回(1/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より欠席が多くなっている。改善を期待する。 ・学校教育自己診断の保護者回答数が少ない。回収率をあげるための取り組みをすべき。 ・子供食堂の参加者は、生徒会以外の生徒も増やしてはどうか。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実践</p> <p>(2)自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実</p> <p>(3)「学びに向かう環境づくり」と欠席・遅刻等の改善</p>	<p>(1)・生徒一人ひとりの学びに寄り添い、ICT活用や独自プリントの作成によりユニバーサルデザインの授業構築をめざし、協働して深い学びに向かう姿勢を育み、「基礎学力の充実」を図る。</p> <p>(2)・特別非常勤やハローワーク等と協力して生徒の自主性・自立性を育みつつ、キャリア意識形成を支援し、希望の進路確保の実現をめざす。 (教育産業等の外部機関を活用して有用な情報提供を行いキャリア意識形成を図ること、および、生徒のニーズに応じた科目の選択や受講指導を実施することを含む)</p> <p>・ハローワーク等との連携や企業訪問により就職先の開拓を行い進路決定の向上につなげる。</p> <p>(3)・生徒面談を随時行い、生徒に寄り添った丁寧な対応および進路指導を行う。 ・保護者との連携を充実させ、生徒一人ひとりの課題の早期発見・早期対応につなげる。</p>	<p>(1)・学校教育自己診断(生徒)の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 60%以上を維持する。[60%]</p> <p>(2)・学校教育自己診断(生徒)の進路指導に関する設問の肯定的回答率 70%以上を維持する。[70%] ・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施(就職希望者の 100%)</p> <p>・進路決定率の水準 90%以上を維持する。[91.3%]</p> <p>(3)・学校教育自己診断(保護者)の進路指導に関する肯定的回答率 65%以上をめざす。[63.6%] ・出席率(生徒登校率) 80%以上を維持する。[83.3%]</p>	<p>(1)・学校教育自己診断(生徒)の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 60.6% (○)</p> <p>(2)・学校教育自己診断(生徒)の進路指導に関する設問の肯定的回答率 73.7% (○) ※ハローワーク職員講話・面接セミナー等を実施 ・応募前職場見学会 斡旋就職希望者 7人で 11社見学会実施 一人一社以上見学者 100% (○)</p> <p>・進路決定率 92.9% (○) 卒業予定者 18名中(進路希望者 14名) 学校斡旋就職内定 7名/7名 縁故等就職(非正規含む) 4名内定 進学希望 2名/2名合格</p> <p>(3)・学校教育自己診断(保護者)の進路指導に関する肯定的回答率 77.8% (◎)</p> <p>・出席率(登校率) 77.2% (△) 出席が常でない生徒の欠席数割合が多くなった。</p>
2 豊かな人間性の育成と人権を尊重する学びの推進	<p>(1)人権尊重の教育の推進</p> <p>(2)体験活動等の充実</p> <p>(3)基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>(4)安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備・提供</p>	<p>(1)・人権研修を通じて身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、自尊心と自己を思いやる豊かな人間性を育む。</p> <p>(2)・文化祭、球技大会等の体験活動をより一層充実させ、健やかな心身を育むとともに人と協働する楽しさを学ぶ場を提供する。 ・生徒会の活動を活発化させ、生徒の自主性や創造性を育む。 ・部活動の活性化を図る。</p> <p>(3)・社会人として基本的なあいさつや礼儀に関する習慣を身につける場を提供する。 ・通信機器や情報機器等の適切な使用マナーを含む情報リテラシーを身につけさせる。</p> <p>(4)・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、SSW・SCを活用した校内体制の充実を図り、保護者の理解を得る。また、子ども家庭センターや市町村関係部局と密に連携をとり、安全・安心な学びの場づくりをめざす。 ・「高校生活支援カード」や中高連携から得られた情報を有効活用する。 ・ヤングケアラーの状況を把握し、教職員間で情報共有を密に行うとともに、SSWの協力を得て外部機関との連携を模索する。 ・「いじめ」の対応について引き続き校内体制の充実を図る。 ・災害時の安全確保の観点から生徒の活動場所の照度点検と安全な作業のための環境整備を継続する。</p>	<p>(1)・学校教育自己診断(生徒)の人権に関する設問で肯定的な回答率 80%以上を維持する。[81.3%]</p> <p>(2)・学校教育自己診断(生徒)の学校行事に関する設問で肯定的な回答率 60%以上を維持する。[61.6%] ・部活動参加のべ人数 45名以上を維持する。(R6年度のべ 52名/在籍 68名)</p> <p>(3)・学校教育自己診断(生徒)の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 70%以上を維持する。[79.7%]</p> <p>(4)・学校教育自己診断(保護者)の相談等に関する設問で肯定的な回答率 70%以上をめざす。[69.7%] ・学校教育自己診断(生徒)のいじめに関する設問で肯定的な回答率 60%以上を維持する。[60%] ・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設改善する。 ※自己点検年 5回実施 [5回]</p>	<p>(1)・学校教育自己診断(生徒)の人権に関する設問で肯定的な回答率 84.2% (○)</p> <p>(2)・学校教育自己診断(生徒)の学校行事に関する設問で肯定的な回答率 68.4% (◎) ※保護者の肯定的回答率: 77.8% [75.8%] ・部活動参加のべ人数 53名 (○)</p> <p>(3)・学校教育自己診断(生徒)の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 78.9% (○)</p> <p>(4)・学校教育自己診断(保護者)の相談等に関する設問で肯定的な回答率 77.8% (◎) ・学校教育自己診断(生徒)のいじめ防止に関する設問で肯定的な回答率 49.0% (△) ・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設の良好な状態を維持した。安全点検 6回実施 [5回] (○)</p>

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上	<p>(1) 学校運営の活性化</p> <p>(2) 教職員の資質・能力の向上とリーダーの育成</p> <p>(3) 同僚性の向上と活気のある職場づくり</p>	<p>(1) ・年度末の総括を踏まえ、各分掌、各委員会、各学年における自由な意見交換を経て、各分掌業務の改善を図る。 ・学校教育自己診断結果等を学校運営協議会等で共有し、意見を集約して学校運営に生かす。</p> <p>(2) ・OJT と外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図る。</p> <p>(3) ・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。 ・各分掌、各委員会、各学年等において適切に業務分担し、各教職員がそれぞれの得意分野を生かした充実感を持つことができる雰囲気を作ることで、活気のある職場づくりをめざす。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断（教員）の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 50%以上を維持する。[64.7%]</p> <p>(2) ・他校定時制教員との交流会を実施する。[初] ・SC SSW による職員研修を実施する。各1回 [1回]</p> <p>(3) ・ストレスチェック「同僚からのサポート」の評価（偏差値）について前年度以上をめざす。[39] ・ストレスチェックの「仕事のコントロール」における評価（偏差値）について前年度以上を維持する。[60]</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断（教員）の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 55.0% (○)</p> <p>(2) ・教科別教員集会の実施（4教科）参加者アンケートによる満足度 100% (◎) ・SC SSW による職員研修会 1回実施 (○)</p> <p>(3) ・ストレスチェック「同僚からのサポート」の偏差値が昨年度から減少した。(△) ※母数 24 人のストレスチェック ・ストレスチェックの「仕事のコントロール」の偏差値が昨年とほぼ同数。全体よりは高かった。[偏差値 58>51 (全体平均)] (○)</p>
4 開かれた学校づくりのための取組みの推進	<p>(1) 地域との連携、地元中学校および保護者等への広報</p> <p>(2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくり</p> <p>(3) ものづくり体験を通じた広報</p>	<p>(1) ・秋季発表大会・産業教育フェア等へ積極的に参加し、教育活動の成果について学校 HP により効果的な情報発信を行い、中学校・地域等にアピールする。 ・保護者の学校活動への参加を促進する。 ・学校見学・説明会の申込を随時受け付け、生徒・保護者・中学校教員にアピールする機会を設ける。</p> <p>(2) ・生徒会による学校周辺地域の清掃活動を実施する。 ・生徒会によるこども食堂支援参加 ・教員による学校周辺地域の清掃活動を、毎日のあいさつ運動時に行う。</p> <p>(3) ・ものづくり体験を通じて定時制の取組について中学校や地域に広報する。</p>	<p>(1) ・生徒の学校行事や課外活動における様々な活動について HP のブログで紹介する。 ※24 回以上更新 [37 回] ・学校教育自己診断（保護者）の「学校行事への参加」に関する肯定的回答率 40%以上を維持する。[45.5%] ・学校見学・説明会の随時実施回数 8 回以上をめざす。[8 回]</p> <p>(2) ・学校周辺の清掃等、地域との活動を充実（年 5 回） ・生徒会をバックアップしこども食堂支援活動を充実させる。 ※年 6 回以上参加 [9 回] ・毎日のあいさつ運動時に学校周辺を清掃 ※授業のある日数 [180 日]</p> <p>(3) ・中学生等にもものづくり体験を実施する。[年 1 回以上]</p>	<p>(1) ・生徒の学校行事や課外活動における様々な活動について HP のブログで紹介した。45 回更新 (○) ・学校教育自己診断（保護者）の「学校行事への参加」に関する肯定的回答率 33.3% (△) ※文化祭への保護者参加数 18 名。学校行事に関する周知方法を検討する。 ※保護者アンケートの回答率が低く回収率向上の工夫が必要 ・学校見学説明会の 15 回実施 (○)</p> <p>(2) ・学校周辺の清掃等活動を実施 5 回 (○) ・こども食堂支援活動の参加 9 回 (○) ・全ての授業日のあいさつ運動時に学校周辺の清掃を実施 (○)</p> <p>(3) ・中学生等に向けてものづくり体験実施できず。(△) ※外部団体からのオファーがなかったことと参加希望生徒の育成が出来なかった。</p>
5 校務の効率化と働き方改革の推進	ア 労働安全衛生管理体制の充実	ア 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に基づき、業務の効率化を図ることにより、個々の教職員の活気につなげる。	ア ストレスチェックの「仕事の量的負担」における評価を前年度以上を維持する。 [76]	ア ストレスチェックの「仕事の量的負担」における偏差値は昨年度より減少しているが全体平均よりかなり高かった。[偏差値 67>43(全体)] (○)